

記録映画アーカイブ・プロジェクト 第11回ワークショップ

「戦後史の切断面 その②「1968・映像のコミュニケーション」

日時：2013年11月24日（日）、13:30-18:00（開場は13:00）

場所：東京大学本郷キャンパス 情報学環・福武ホール 福武ラーニングシアター（B2F）

プログラム：

13:00- 開場

13:30- 開会 総合司会：丹羽美之（東京大学）

13:35- 映画上映（約119分）

- ・ニュース映画で見る1969年1月東大安田講堂の攻防（1968-69年、18分）
- ・「おきなわー日本1968」（1968年、8分、製作：岩波映画労働組合）
- ・「死者よ来たりて我が退路を断て」（1969年、64分、製作：グループびじょん）
- ・「'69・6・15」（1969年、9分、製作：東大全共闘を支援する映画人の会）
- ・「地下広場」（1969年、85分、製作：広場の一味）*ダイジェスト上映（20分）

15:35- 休憩

15:50- 制作者が語る 司会 筒井武文（東京藝術大学）

井坂能行（元岩波映画監督）

北村隆子（元日本映画新社監督）

水野征樹（上映作品カメラマン）

16:30- パネリスト報告

長崎浩（評論家）

筒井武文（東京藝術大学）

17:10- 全体討論

コーディネーター：吉見俊哉（東京大学）

18:00- 終了

記録映画アーカイブ・プロジェクト 第11回ワークショップ
戦後史の切断面(2)「1968・映像のコミュニケーション」上映作品 解説

上映作品 計 119 分

■「ニュース映画で見る 1969 年 1 月東大安田講堂攻防」(1968-69、18 分)

当時映画館では本編前にニュース映画が上映されていた。東宝系で「朝日ニュース」、日活系で「毎日ニュース」が流されていた。今回は松竹系で上映されていた「読売国際ニュース」が伝えた安田講堂攻防に至る学園紛争の「特集号」を上映。*シネスコ画面が左右少し切れている(映像提供 読売映像)

■「おきなわー日本 1968」(1968 年、8 分、製作:岩波映画労働組合)

岩波映画には「写真文庫」に端を発して、オートスライド、書籍、カレンダー用に写真撮影等を行う写真部があり、社員カメラマン、契約カメラマンが働いていた。その中で女性を含む 10 人近くの有志が復帰前の沖縄や本土での各種の闘争を自主的に撮り続けていた。それをヨーロッパでのシネクラフト、アメリカのニューズリールの活動のように社会へのアピールに活かそうと、組合でスチール構成のショートフィルムに仕上げたものの 1 本。(映像提供 井坂能行氏)

■「死者よ来たりて我が退路を断て」(1969 年、64 分、製作:グループびじょん、演出:北村隆子、撮影:水野征樹)

日大芸術学部のバリーケード内の学生と連帯して、機動隊突入までの学園民主化闘争の日常を取材。製作した「グループびじょん」は日本映画新社の労組員や同社の契約スタッフ有志で結成。(映像提供 千原卓司氏)

■「'69・6・15」(1969 年、9 分、製作:東大全共闘映画班+東大全共闘を支援する映画人の会)

1969 年 6 月 15 日、9 年前の安保闘争での 6.15 を記念して、市民、労働者、学生の統一集会が全国で大規模に開催された。東京日比谷では東大全共闘の山本義隆議長も登壇した。東京集会の 1 日をとらえ「映画のピラ」として製作したもののオリジナル原版が今回偶然発見された。その原版からデジタル化した映像を初上映する。(所有 岩波映画労働組合)

■「地下広場」(1969 年、ダイジェスト 20 分、製作:広場の一味、監督:大内田圭弥撮影:福井和兄、音響:大野松雄)

1969 年春から秋、新宿西口地下広場はベトナム反戦、沖縄闘争、入管法反対、三里塚

空港阻止を叫ぶ人々やフォークを歌う若者たちであふれた。当時の若者たちの声が活写されている。監督の大内田圭弥はジャーナリスト（毎日新聞）出身。音響は「鉄腕アトム」の効果音で知られる大野松雄。なお、今回は時間の都合でオリジナル 85 分版を筒井武文氏がダイジェスト編集。

*カットした所は、1 秒間の黒味を挿入。（映像提供 大木晴子氏）